

みずほマーケット・トピック(2016 年 3 月 4 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は揉み合い推移。週初 29 日、113 円台後半でオープンしたドル/円は月末の円買い需要や利益確定の売りが入る中、113 円台前半まで下落。その後、米 2 月シカゴ PMI や米 1 月中古住宅販売仮契約の悪化を嫌気すると、ドル/円は 112 円台後半まで売り進められた。3 月 1 日には、中国 2 月製造業 PMI の市場予想を下回る結果を受けて、ドル/円は一時週安値となる 112.16 円まで下落したが、前日に中国人民銀行が預金準備率を引き下げたことを背景にリスク回避姿勢が和らぎ、ドル/円は 112 円台後半まで上昇した。その後、米 2 月 ISM 製造業景気指数の改善などを好感すると、ドル/円は 113 円台後半まで上昇した。2 日には、米 2 月 ADP 雇用統計の市場予想を大きく上回る結果にドル買いが強まると、一時週高値となる 114.56 円まで上昇したが、原油価格や米金利低下も相俟って 113 円台前半まで押し戻された。3 日は、日経平均株価が続伸となる展開にドル/円は 114 円台前半まで強含む場面が見られるも、米 2 月 ISM 非製造業景気指数の冴えない結果にドル売りが強まると一時 113 円台前半まで下落した。本日にかけては今晚に米 2 月雇用統計を控え、ドル/円は 113 円台後半で値動きに乏しい推移が続いている。
- ・今週のユーロ相場は往って来いの展開。週初 29 日、1.09 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、1.09 台後半まで上昇するもユーロ圏 2 月消費者物価指数(HICP)の低下を背景に追加緩和観測が一段と強まる中、1.08 台後半まで下落した。3 月 1 日は、ドラギ ECB 総裁のインフレ見通しに対するハト派な発言が伝わると、来週 10 日の理事会における追加緩和期待が強まり、ユーロ/ドルは 1.08 台前半まで値を下げる場面も見られたが、米株高を受けたユーロ/円の買いに下値をサポートされ 1.08 台後半まで上昇した。しかし 2 日は、米 2 月 ADP 雇用統計の市場予想を上回る結果などを好感したドル買いにユーロ/ドルは一時週安値となる 1.0826 まで下落したが、このレベルでは買い意欲も見られ 1.08 台後半まで回復。3 日は、ポジション調整などからユーロ/ドルは 1.09 台前半まで買い戻しが入る中、米 2 月 ISM 非製造業景気指数の冴えない結果を受けたドル売りに一時週高値となる 1.0972 まで上昇した。本日にかけては、やや値を下げるもののユーロ/ドルは 1.09 台半ばで底堅い推移となっている。

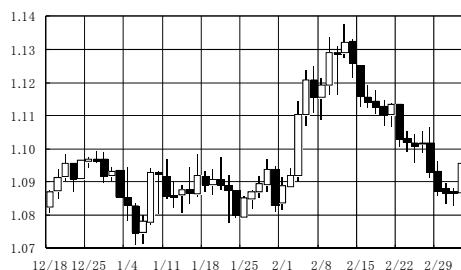
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/26(Fri)	2/29(Mon)	3/1(Tue)	3/2(Wed)	3/3(Thu)
ドル/円	東京9:00	113.14	113.71	112.42	113.91	113.49
	High	114.00	114.00	114.18	114.56	114.28
	Low	112.56	112.66	112.16	113.22	113.30
	NY 17:00	114.00	112.70	114.01	113.47	113.70
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1023	1.0924	1.0886	1.0876	1.0870
	High	1.1069	1.0963	1.0894	1.0880	1.0972
	Low	1.0912	1.0859	1.0834	1.0826	1.0854
	NY 17:00	1.0933	1.0873	1.0868	1.0868	1.0956
ユーロ/円	東京9:00	124.72	124.24	122.41	123.89	123.35
	High	125.01	124.49	124.07	124.35	124.60
	Low	124.23	122.47	122.09	123.10	123.35
	NY 17:00	124.61	122.55	123.91	123.29	124.58
日経平均株価		16,188.41	16,026.76	16,085.51	16,746.55	16,960.16
TOPIX		1,311.27	1,297.85	1,300.83	1,349.61	1,369.05
NYダウ工業株30種平均		16,639.97	16,516.50	16,865.08	16,899.32	16,943.90
NASDAQ		4,590.47	4,557.95	4,689.60	4,703.42	4,707.42
日本10年債		-0.07%	-0.06%	-0.06%	-0.03%	-0.01%
米国10年債		1.76%	1.73%	1.82%	1.84%	1.83%
原油価格(WTI)		32.78	33.75	34.40	34.66	34.57
金(NY)		1,220.40	1,234.40	1,230.80	1,241.80	1,258.20

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・欧州では、8日(火)にユーロ圏10～12月期GDP(2次速報)、独1月鉱工業生産が発表されるほか、10日(木)にECB理事会が予定されている。ECB理事会では前回理事会(1月)における追加緩和予告を受けて、①預金ファシリティ金利の引き下げ(▲0.30%→▲0.40%)、②ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)の期間延長(2016年6月末→2017年6月末)、③拡大資産購入プログラム(APP)の月間購入額引き上げ(600億ユーロ→700億ユーロ)が行われると予想する。また、要人発言を踏まえるとマイナス金利幅の拡大に伴って日銀型の階層化された準備預金を検討される可能性もあるだろう。12月に行われた追加緩和は、事前予告で高まっていた市場の期待を下回る内容となり、市場の失望を買う結果になった。今回、市場の期待を上回るためには最低限①と③が必要と考えられる(詳細は本欄2016年3月2日号『ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～』をご参照ください)。このほか、10～12月期ユーロ圏GDP(2次速報)では同期間の需要項目の内訳が初めて公表される。10～12月期の月次指標を見ると、ユーロ圏小売数量や鉱工業生産は小幅ながらも減速した模様だが、輸出が堅調に推移したとみられる。2次速報の伸び率は同+0.3%と1次速報から横這いになると予想されている。
- ・本邦では、8日(火)に10～12月期GDP(2次速報)、1月国際収支の発表が予定されている。このうち10～12月期GDP(2次速報値)は1次速報の前期比▲0.4%から上方修正されて同▲0.2%となる見込みである(みずほ総合研究所による試算)。改定で注目される設備投資に関して、算出に用いられる10～12月期法人企業統計では設備投資(ソフトウェアを除く、金融・保険業を除く全産業)は前期比▲0.0%と7～9月期(同+5.7%)から減速して横這いとなった。但し、1次速報での内閣府による仮置き値が低めだったため、2次速報では設備投資が小幅ながらも上方修正される見込み。また、民間在庫投資が上方修正される一方、公共投資は下方修正されると予想されている。総評としては景気の踊り場が続いたとの見方が維持される。
- ・米国では、8日(火)にミシガン州などで大統領予備選挙、10(木)に共和党候補者討論会がフロリダ州で行われる。共和党の候補者争いで独走状態にあるトランプ氏だが、スーパーチューズデーに次いで獲得代議員数が拡大する15日(火)の予備選(フロリダ州など)でも勝利を収められるかが大きな節目となる。なお、フロリダ州は共和党正統派と言われるルビオ氏の地元でもあり、選挙結果次第ではルビオ氏が指名争いを続けられるかにも影響する。事前の討論会での両氏の発言が注目される。このほか、8日(火)にブレイナードFRB理事及び、フィッシャーFRB副議長の講演が予定されている。

	本 邦	海 外
3月4日(金)	—————	・米2月雇用統計 ・米1月貿易収支
7日(月)	・1月景気動向指数(速報)	・米1月消費者信用残高 ・ユーロ圏財務相会合 ・独1月製造業受注
8日(火)	・10～12月期GDP(2次速報) ・1月国際収支 ・2月貸出・預金動向 ・2月景気ウォッチャー調査 ・2月企業倒産件数	・米大統領予備選挙(ミシガン州など) ・ユーロ圏10～12月期GDP(2次速報) ・EU経済・財務相理事会(ECOFIN) ・独1月鉱工業生産
9日(水)	・2月マネーストック	・米1月卸売売上高 ・米民主党候補者討論会
10日(木)	・2月企業物価 ・1～3月期法人企業景気予測調査	・米2月財政収支 ・米共和党候補者討論会 ・ECB理事会(フランクフルト) ・独1月貿易収支
11日(金)	—————	—————

【当面の主要行事日程(2016年3月～)】

日銀金融政策決定会合(3月14～15日、4月27～28日、6月15～16日)
 米FOMC(3月15～16日、4月26～27日、6月14～15日)
 G20財務相・中央銀行総裁会議(4月13～14日、ワシントン)
 ECB理事会(4月21日、6月2日、7月21日)
 ユーロ圏財務相会合、EU経済財務相理事会(ECOFIN)(4月22日～23日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2016年3月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 労働力調査(1月) 日本 家計調査(1月) 日本 自動車販売台数(2月) 日本 法人企業統計(10～12月期) 米国 ISM製造業景気指数(2月) 米国 建設支出(1月) ユーロ圏 失業率(1月)	2 日本 マネタリーベース(2月) 米国 ADP雇用統計(1月) 米国 ページブック	3 米国 労働生産性(確報、10～12月期) 米国 ISM非製造業景気指数(2月) 米国 製造業新規受注(1月)	4 米国 雇用統計(2月) 米国 貿易収支(1月)	
7 日本 景気動向指数(速報、1月) 米国 消費者信用残高(1月) ユーロ圏 財務相会合 ドイツ 製造業受注(1月)	8 日本 GDP(確報、10～12月期) 日本 国際収支(1月) 日本 貸出・預金動向(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(2月) 日本 企業倒産件数(2月) ユーロ圏 GDP(速報値、10～12月期) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ECOFIN) ドイツ 鉱工業生産(1月)	9 日本 マネーストック(2月) 米国 卸売売上高(1月)	10 日本 企業物価(2月) 米国 財政収支(2月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) ドイツ 貿易収支(1月)	11 日本 法人企業景気予測調査(1～3月期)	
14 日本 金融政策決定会合(～15日) 日本 機械受注(1月) ユーロ圏 鉱工業生産(1月)	15 日本 鉱工業生産(確報、1月) 日本 第三次産業活動指数(1月) 米国 FOMC(～16日) 米国 小売売上高(2月) 米国 生産者物価(2月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(3月) 米国 企業在庫(2月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、1月)	16 米国 住宅着工(2月) 米国 消費者物価(2月) 米国 鉱工業生産(2月)	17 日本 貿易収支(2月) 米国 経常収支(10～12月期) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(3月) 米国 景気先行指数(2月) ユーロ圏 EU首脳会議(ブリュッセル、～18日) ユーロ圏 貿易収支(1月) ユーロ圏 消費者物価(確報、2月)	18 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨 (1月28～29日開催分) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、3月)	
21 日本 春分の日 米国 中古住宅販売(2月) ユーロ圏 国際収支(1月)	22 ドイツ ZEW景況感指数(3月) ドイツ IFO企業景況感指数(3月)	23 米国 新築住宅販売(2月)	24 日本 日銀金融政策決定会合(主な意見) 米国 耐久財受注(2月)	25 日本 全国消費者物価(2月) 日本 東京都都区消費者物価(3月) 日本 企業向けサービス価格(2月) 日本 景気先行指数(確報、1月) 米国 GDP(3次速報、10～12月期)	
28 米国 個人所得・消費(2月)	29 日本 金融政策決定会合・展望レポート 日本 労働力調査(2月) 日本 家計調査(2月) 日本 商業販売統計(2月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(1月) 米国 消費者信頼感指数(3月)	30 日本 鉱工業生産(速報、2月) 米国 ADP雇用統計(3月)	31 日本 新設住宅着工(2月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(3月) ユーロ圏 消費者物価(速報、3月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2016年4月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 日銀短観(3月調査) 日本 自動車販売台数(3月) 米国 雇用統計(3月) 米国 ISM製造業景気指数(3月) 米国 建設支出(2月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、3月) ユーロ圏 失業率(2月)	
4 日本 マネタリーベース(3月) 米国 製造業新規受注(2月)	5 米国 貿易収支(2月) 米国 ISM非製造業新規受注(3月) ドイツ 製造業受注(2月)	6 日本 景気動向指数(速報、2月) 米国 FOMC議事要旨 ドイツ 鉱工業生産(2月)	7 米国 消費者信用残高(2月)	8 日本 国際収支(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(3月) 日本 *企業倒産件数 米国 卸売売上高(2月) ドイツ 貿易収支(2月)	
11 日本 機械受注(3月)	12 日本 貸出・預金動向(3月) 米国 財政収支(3月)	13 日本 企業物価(3月) 日本 マネーストック(3月) 日本 小売売上高(3月) 米国 生産者物価(3月) 米国 企業在庫(2月) 米国 ベージュブック ユーロ圏 鉱工業生産(2月)	14 米国 消費者物価(3月) ユーロ圏 消費者物価(確報、3月)	15 日本 鉱工業生産(確報、2月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(4月) 米国 鉱工業生産(3月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、4月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、2月) 米国 IMF・世界銀行春季総会(ワシントン、～17日) ユーロ圏 貿易収支(2月)	
18	19 米国 住宅着工(3月) ユーロ圏 経常収支(2月) ドイツ ZEW景況指数(4月)	20 日本 貿易収支(3月) 日本 景気動向指数(確報、2月) 米国 中古住宅販売件数(3月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(4月) 米国 景気先行指数(3月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	22 日本 第三次産業活動指数(2月) ユーロ圏 財務相会合(アムステルダム)	23 ユーロ圏 EU経済・財務相会合 (ECOFIN、アムステルダム)
25 日本 企業向けサービス価格(3月) 米国 新築住宅販売(3月) ドイツ IFO企業景況感指数(4月)	26 米国 FOMC(～27日) 米国 耐久財受注(3月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(2月) 米国 消費者信頼感指数(4月)	27 日本 日銀金融政策決定会合(～28日)	28 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 東京都都区消費者物価(4月) 日本 全国消費者物価(3月) 日本 労働力調査(3月) 日本 家計調査(3月) 日本 商業販売統計(3月) 日本 新設住宅着工(3月) 米国 GDP(1次速報、1～3月期)	29 日本 みどりの日 米国 雇用コスト(1～3月期) 米国 個人所得・消費(3月) 米国 シカゴPMI(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、4月) ユーロ圏 失業率(3月) ユーロ圏 消費者物価(速報、4月) ユーロ圏 GDP(確報値、1～3月期)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年3月3日	今年が「円高の年」なら、まだ底は深い～過去30年の経験則～
2016年3月2日	ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～
2016年3月1日	上海G20、為替見通しへのインパクトについて
2016年2月26日	週末版(筋が通らない日中に対する通貨安批判～まずはFRBの政策修正が筋～)
2016年2月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年1月分)
2016年2月24日	英国のEU離脱に係る論点整理
2016年2月22日	中国版ブラザ合意へ燃える期待について
2016年2月19日	週末版(ECB理事会議事要旨(1月21日開催分))を受けて～「保険」≒「混乱の種」という皮肉～)
2016年2月16日	マイナス金利で円高は「不幸中の幸い」?
2016年2月12日	週末版(やはり始まった購買力平価への回帰～最終的に報われる為替予測とは～)
2016年2月10日	弱まる「期待への働きかけ」と為替相場の関係
2016年2月9日	円の需給環境の総括と展望～15年国際収支を受けて～
2016年2月8日	米1月雇用統計を受けて～成熟化への不安～
2016年2月5日	週末版(マイナス金利決定から1週間を終えて～早くも心配される「本当のマイナス金利」～)
2016年2月4日	「終わりの始まり」が近づくFRBの正常化プロセス
2016年2月3日	円安ドライバーとしては役不足な日銀マイナス金利
2016年2月2日	日銀の追加緩和が可能だった理由
2016年2月1日	日銀マイナス金利政策導入を受けて～逐次投入体制へ～
2016年1月29日	週末版
2016年1月28日	FOMC(1月26～27日開催分)を受けて
2016年1月27日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年12月分)
2016年1月26日	ドラギ総裁講演について～崩れるインフレ期待の「壁」～
2016年1月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～静観する勇氣～
2016年1月22日	週末版(ECB理事会を終えて～2連敗は避けられるか?～)
2016年1月21日	円相場の調整余地を探る～試される日銀～
2016年1月20日	ユーロ相場を巡る最近の証券投資フローについて
2016年1月19日	ECB理事会プレビュー～ECB版の補完措置へ向けて～
2016年1月18日	「あく抜け」に求められるもの～人民元の完全フロート化～
2016年1月15日	週末版(ECB理事会議事要旨について～ドラギマジック、「初の黒星」の舞台裏～)
2016年1月14日	厳しくなってきたFRBの「痩せ我慢」
2016年1月13日	本邦11月国際収支統計と円相場の需給について
2016年1月12日	Game changer!になれなかった米12月雇用統計
2016年1月8日	週末版(中国外貨準備減少の正しい読み方～トリレンマの「総取り」はいつまでも出来ない～)
2016年1月7日	FOMC議事要旨～「ハト派なタカ派」を再確認～
2016年1月5日	119円台前半の意味～想定為替レートとの対比～
2016年1月4日	2016年の為替見通しポイント～過去2年との違い～
2015年12月28日	2015年の為替相場総括～為替従属強まる日米欧中銀～
2015年12月25日	週末版(【暫定版】中期為替相場見通し～ユーロ相場～)
2015年12月24日	【暫定版】中期為替相場見通し～ドル/円相場～
2015年12月22日	完全雇用の背後にあるもの～景気と雇用のズレ～
2015年12月21日	日銀金融政策決定会合～QQE2.5の読み方～
2015年12月18日	週末版
2015年12月17日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2015年12月16日	日米金利差から見る現状のドル/円相場
2015年12月14日	日銀短観12月調査～後がない想定為替レート～
2015年12月11日	週末版(ECBのバランスシート拡大について～「2016年6月」に向けての進捗状況～原油価格下落のG3通貨への含意)
2015年12月9日	原油価格下落のG3通貨への含意
2015年12月8日	本邦10月国際収支統計と円相場の需給について
2015年12月7日	ECBはどうしたら踏み込むのか?今後のユーロ相場は?
2015年12月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「故意的な失望」は転ばぬ先の杖か～)
2015年12月3日	イエレン講演や限界に迫るドル買い相場
2015年12月2日	実質実効為替相場(REER)で見る、ドル相場・円相場
2015年12月1日	ECB理事会プレビューの補足～超日銀化現象～
2015年11月27日	週末版
2015年11月26日	追加緩和後のユーロ相場～また、「下落の時代」?～
2015年11月25日	ECB理事会プレビュー(12月3日開催分)～3つの緩和メニュー～
2015年11月24日	ECB理事会議事要旨～「未知の領域」への不安も～
2015年11月20日	週末版
2015年11月17日	本邦7～9月期GDPを受けて～最近のULC動向～
2015年11月16日	仏同時多発テロを受けて～政治統合か、瓦解か～
2015年11月13日	週末版(ドル調達コストの急騰について～「割に合わない」ムードが強まる対外証券投資～)
2015年11月12日	12月ECB緩和を阻むもの～戻ってしまったインフレ期待～
2015年11月11日	米輸入物価下落が示す「不況の輸入」
2015年11月10日	本邦9月国際収支統計と円相場の需給について
2015年11月9日	米10月雇用統計を受けて～問題は「何回できるか」～
2015年11月6日	週末版(ECBの「次の一手」を考える～預金ファシリティ金利のマイナス幅はどこまでいくのか～)
2015年11月4日	3度目の正直に挑む、ドル/円相場の年間値幅
2015年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～幻滅リスク回避も・・・～
2015年10月30日	週末版
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和予告は日銀を追い詰めたと言えるのか?
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)
2015年10月21日	米為替政策報告書について～我慢の限界は近い?～
2015年10月20日	日銀金融政策決定会合プレビュー(10月30日開催分)
2015年10月19日	ECB理事会プレビュー(10月22日開催分)
2015年10月16日	週末版(ユーロ相場の乱高下を受けて～迫るHICPのマイナス常態化と追加緩和～)
2015年10月15日	米利上げを再検討すべき時期に
2015年10月14日	ドイツ経済に見られ始めた失速の兆候
2015年10月13日	正当性を増すブレイナードFRB理事のスタンス
2015年10月9日	週末版(ECB理事会議事要旨(9月2～3日開催分))～崩れるインフレ期待?～)
2015年10月8日	本邦8月国際収支統計と円相場の需給について
2015年10月7日	IMF秋季世界経済見通し～利上げ不安は高まるばかり～
2015年10月6日	「利上げの好機」を逸したか～待ちくたびる雇用回復～
2015年10月5日	米9月雇用統計～皮肉な円安シナリオの延命も?～
2015年10月2日	週末版(外貨準備構成通貨の内訳(15年6月末時点)～中国報告開始の影響を考える～)
2015年10月1日	日銀短観9月調査～追加緩和の行方は?～
2015年9月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年8月分)
2015年9月28日	物価測度に照らしたドル/円相場の現状と展望
2015年9月25日	週末版(名目GDP600兆円への道～新「3本の矢」が目指すところ～)
2015年9月24日	欧州難民危機は統合深化の試金石に